



イノスマンスリー

INOS Monthly

知って得する！ 住まいの場所別お手入れ法

No.21

天然木の家具

* 素材に合った手入れで長持ちさせる

家具を長持ちさせるコツは、素材に合った手入れ方法です。天然木の家具は、水拭きは禁物。化学ばたきでホコリをはらい、やわらかい布でカラ拭きします。桐のタンスはカラ拭き以外はしないのがポイント。黒檀やかりんは、薄めの台所用洗剤液を固くしぼったタオルで拭き、カラ拭きします。チークやオーク材でツヤのあるものも同様です。ツヤ消しものは洗剤で拭いたあと、水拭き、カラ拭きで仕上げます。けやき、桜、ならば、薄めの住居用洗剤を固くしぼったタオルで拭き、水拭き、カラ拭きして家具用ワックスで仕上げます。

* タンスの引出しは湿気で固くなる

梅雨時など、タンスの引出しが固くなる場合がありますが、この原因は湿気です。そこで、この時期はタンスを壁から5~6センチ離し、下にビニールを敷いて湿気を防ぐことが肝心です。引出しが固くなったら、引出しの縁や溝にロウソクを塗り、こすれた部分はサンドペーパーをかけます。時々引出しを陰干しすることも大切です。

* 家具の傷には、クレヨンとマニキュアを塗る

大切な家具に傷がついてしまったら、家具の色に合わせて家具用の傷隠しクレヨン塗り、その上から透明マニキュアを塗ると目立たなくなります。

* 桐のタンスが汚れたら削り出しを頼む

桐のタンスは大事に使えば2代、3代と長持ちします。布製のカバーをかけるなどいねいに扱うのがポイントですが、長い間には傷もつきまします。小さな傷や汚れが目立ってきたら、専門家に削り出しを依頼するとよいでしょう。新品同様になります。

【ワンポイント】桐のタンスがへこんだら、水を固くしぼった布を当て、上から中温程度のアイロンを根気よく当てて。



洋家具

* 木製の塗装家具の汚れには薄めの住居用洗剤

木製の塗装家具は化学布巾や布でカラ拭きし、ホコリをためないのがコツ。汚れてきたら、薄めの住居用洗剤で拭き、水拭き、カラ拭きして水気をすっかり取り除きます。

【ワンポイント】塗装仕上げの家具の傷は、同じ色のクレヨンか絵の具で傷の部分を塗りつぶし、その上から透明のマニキュアを塗る。



* 合板・スチール家具は材質を確かめてから

化粧合板には、メラミン、ポリエステル、プリントなどの種類があり、それぞれ手入れを使い分けます。メラミン合板は汚れにくく、水拭きすれば汚れはすぐ落ちます。ポリエステル合板は水拭きでき、汚れは薄めの住居用洗剤で落とします。プリント合板は水拭きせず、普段は化学布巾や布でカラ拭きし、汚れは薄めの住居用洗剤液を固くしぼった雑巾を使い、そのあとカラ拭きします。スチール家具は洗剤拭き、水拭きOKです。金属磨き剤で磨けば、汚れ防止、サビ防止になります。

* 藤や竹の家具は湿気に弱い

藤や竹の家具は網目にホコリがたまりやすいので、ブラシノズルをつけた掃除機が荒神ほうきを使います。そのあと科学布巾で拭きます。汚れてきたら、薄めの住居用洗剤液で固くしぼった雑巾でよく拭き、洗剤分を残さないように水拭きします。さらにカラ拭きしたあと、風通しのよいところで陰干しして仕上げます。

【ワンポイント】藤の黄ばみを取るには、薄い塩水をブラシにつけてこする。藤の網目がほつれたら、先端に木工用接着剤をつけ太いヒモで固定し、しっかり接着したらヒモはずす。



『住まいのお手入れハンドブック』（PHP研究所）より

『住まいのお手入れハンドブック』発・お役立ち情報、次号もお楽しみ

全国に広がる家づくりネットワーク

INOS

イノスグループ



株式会社 田中工務店

本社 京都府舞鶴市倉谷1016番地
〒624-0906 TEL0773(75)2227(代)
FAX0773(77)1667

☎ 0120-185-750